



万葉集を 訪ねて

第12回

よし
の
がわ
吉野川

奈良大学教授 上野 誠

はじめて吉野を訪れた多くの人が、口にする言葉がある。「奈良県」という県の南は、山国なのでね。そして、奈良県にもこんな大きな川が流れているなんて、吃驚しました。たしかに吉野は、いわゆるクンナカ(奈良平野)から見れば別天地だ。

日本の古代国家の歴史は、「壬申の乱」という内乱によって、大きく展開することになる。天智天皇の崩御後、皇位継承争いに打ち勝って即位をした天武天皇は、一時期吉野に隠棲していたのである。そのために、吉野は天武天皇にとって重要な場所になったのである。時に、西暦六七二年のことである。その天武天皇が、天武天皇八年(六七九)五月の行幸の折に作った歌がある。

天皇、吉野宮に幸せる時の御製歌
よき人の よしとよく見て
よしと言ひし 吉野よく見よ
よき人よく見 (巻二の三七)
(左注省略)

かつてよい人が、よしとよく見てよしと
いった、この吉野をよく見なさいよ、今のよ
い人もよく見なさいよ……という歌であ
る。この歌が作られたのは五月五日である
が、明けて六日には、いわゆる「六皇子の盟

約」が行われている。六皇子の盟約とは、天武天皇ゆかりの六人の皇子が、天皇と皇后に忠誠を誓ったもので、重要な政治的役割をもっていた。その盟約を吉野で行ったのは、壬申の乱と関わりがあることはいうまでもない。「吉野をよく見よ」という言葉の裏には、あの戦乱のことを忘れるな、との天武天皇の思いが込められているはずである。

この天武天皇の呪文のような歌に答えて吉野をよく見た歌が、「吉野宮に幸せる時に、柿本朝臣人麻呂が作る歌」であり、吉野の風土を讃める歌となっている。その反歌が、次の歌である。

見れど飽かぬ 吉野の川の
常滑の 絶ゆることなく
またかへり見む (巻二の三七)

柿本人麻呂は、天武天皇の言葉どおり、吉野の山河を、「絶ゆることなくまたかへり」見ているのである。
私は、ひとりでも多くの人に、吉野の清流を見てほしいと思う。



(行き方)近鉄大和上市駅から奈良交通バス「杉の湯行」で「宮滝」下車、南へ約200m。

万葉集の舞台へ

吉野宮

4月の吉野と言えば桜が有名だが、吉野山へ参詣・遊山するようになったのは平安時代からで、それ以前は、吉野へ行くといえ、吉野川上流にある「宮滝」がその目的地と決まっていた。吉野宮があった場所である。天武、持統、聖武天皇などがたびたび訪れたといわれる。緑豊かな自然と大岩が立ち並ぶ景色は壮観で、そこに立ってみると、昔の人が同じ場に宮をくり返し建てたことがうなづける。

リニューアルされた奈良県のウォーキングポータルサイト「歩く・なら」で万葉集の舞台を訪ねよう! [歩く・なら](#) [検索](#)